

平成26年産米の作柄と次年度対策

平成26年の阿賀野市の稲作を振り返ると...

- ① コシヒカリは1等級比率90%以上を確保した地域が多く、品質の向上が図られた。
- ② ただし、台風11号によるフェーン害が発生し、安田地区、笹神地区の一部で著しい減収、品質低下となる被害を受けた。
- ③ こしいぶきをはじめとする早生品種では、未熟粒(心白粒、除青未熟、青未熟粒)の発生により品質が低下した。

振り返りを活かして、来年の美味しいお米づくりにつなげよう！

【表】作況指数及び1等級比率(加工用米除く)

| 1等級比率 (主食用米) | 品種全体 % | 作況指数 (下越北) | |
|-----------------|-----------|---------------|-------|
| | | コシヒカリ | こしいぶき |
| JA北蒲みなみ 水原 | 85.6 | 94.4 | 70.5 |
| 安田 | 72.7 | 75.2 | 44.2 |
| 京ヶ瀬 | 86.8 | 96.3 | 49.1 |
| JAささかみ | 87.7 | 94.1 | 71.7 |

101

(1) H25年の反省をふまえて...イネの生育に合わせた「適期中干し」はできましたか？

- ・中干しが遅れ気味だった昨年までの反省から、今年は6月上旬に市・JA・普及センター等で、一斉茎数調査を実施し、携帯メール等で迅速に情報を発信しています。
- ・今年は初期生育が旺盛で、「中干し適期」(㎡当たり茎数270本)を迎えるのも早くなりました。
- ・阿賀野市内では、前年より3~5日程度、中干しのピークが早まりました。

【表】6月上旬の茎数調査結果と中干し時期(6/5~6 阿賀野市内40地点)

| 地区 | ㎡当たり茎数 | | 中干し時期 | | |
|-----|--------|-----|-------|--------------|-------------|
| | 最大 | 平均 | 適期※ | 盛期※ (H26) | 盛期 (H25) |
| 水原 | 361 | 211 | 6/10 | 6/14 | 6/20 |
| 京ヶ瀬 | 273 | 212 | 6/11 | 6/15 | 6/20 |
| 安田 | 220 | 163 | 6/12 | 6/15 | 6/18 |
| 笹神 | 288 | 173 | 6/12 | 6/15 | 6/20 |

※適期...㎡当たり茎数が270本に達すると予想される時期
※盛期...地域の50%のほ場で中干しが実施された時期

【中干しでスッキリ！ツール】(普及センター作成)

- ・簡単にほ場の茎数を判断するための写真入りツールです。
- ・見た目は物足りなく感じる株も、意外と茎数は確保されています。

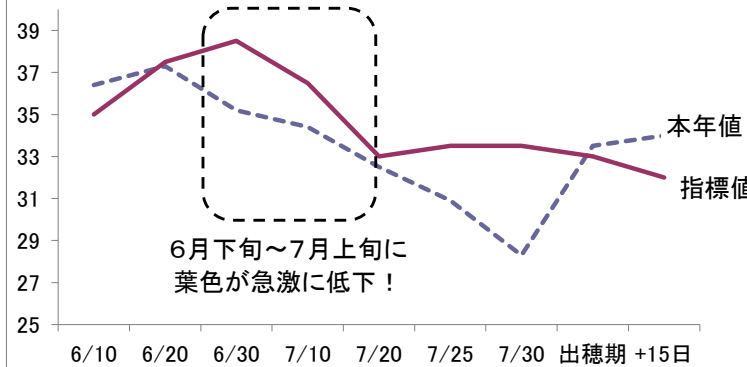


中干し開始のめやすは「田植え後30日！」

次年度対策

- 中干し開始は「毎年決まった時期」ではなく「イネの姿」を見て判断→自分のほ場の茎数を確認して中干しを始めよう！
- 目で見てわかる判断ツールや、携帯メール情報...使える物は何でも上手に活用しよう！

(2) 7月上旬の葉色低下...慌てて穂肥はストップ！「根の健康維持」はできていましたか？



【図】コシヒカリ葉色(SPAD)の推移(阿賀野市下条)

・6月下旬~7月上旬にかけて、高温・多日照により、急激に葉色が低下したほ場が多く見られました。

・7月上旬はイネの下部節間が伸長する時期です。この時期の窒素施肥は、草丈の伸長による倒伏のリスクを高めます。葉色が低下してもつなぎ肥や、早すぎる1回目の穂肥は施用しないことが大切です。

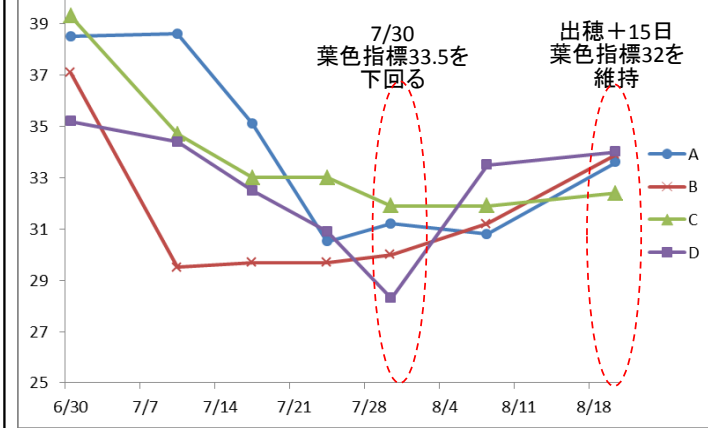
【表】イネ下部節間の伸長期間と生育量めやす

| 節間 | 伸長期間 | めやす |
|------|-----------|--------|
| 第5節間 | 出穂29~20日前 | 5cm以内 |
| 第4節間 | 出穂23~13日前 | 10cm以内 |

次年度対策

- 十分な中干しと、飽水管理で、根の健康を維持→高温時の葉色低下を抑えよう
- 急激な葉色低下にはあせらず対応→カリ追肥による葉色発現促進などで対応しよう

(3) 穂肥を終えても油断は禁物...「後期栄養の確保」は十分でしたか？



【図】コシヒカリ調査ほの葉色の推移(JA・普及C)※A~Dは地点名

・コシヒカリの出穂10日前にあたる、7月下旬に葉色が指標を下回るほ場が多く見られました。

・この時期は、穂肥施用が終わっている時期ですが、葉色の低下をとらえ、追加の穂肥(3回目穂肥、一発基肥への追肥)を迅速に行うことで、後期栄養を確保することができます。

・慣行栽培(化成肥料利用)の場合は出穂3日前まで、低減栽培(有機質5割以上肥料利用)の場合は出穂10日前までは、追加の穂肥を施用できるよう準備しておくことが大切です。

次年度対策

- 「3回目の穂肥」を常に意識して...後期栄養を確保しよう。
- 地道な努力...土づくり、水管理もたいせつに

(4) 登熟期間の気象リスク①...台風11号フェーン被害への対応~今後の教訓として~

・8月10日夜間から、8月12日夜間にかけて、台風11号の接近に伴う強風(フェーン)が発生しました。

・出穂直後のコシヒカリを中心に、白穂や変色粒が発生し、著しい減収や品質低下などの被害となりました。

・被害の発生から収穫までの間に、籾の外観調査や、試し刈りなどを行い、①刈り分け ②色彩選別機の活用 ③1.9mmふるい目の活用など被害を最小限に食い止める事後対応をすすめました。

【阿賀野籾田(安田地区)での被害概要詳細】

- 品種:コシヒカリ
- 移植:5月10日
- 出穂:8月9日
- 坪刈収量:363kg/10a(平年比74%)
- 検査等級:3等(格落要因・除青未熟)

【表】コシヒカリ多被害ほ場の変色粒率・白穂率と収量・品質

| | 変色粒率 % | 白穂率 % | 精玄米重 (kg/10a) | 整粒歩合 % | 未熟粒 % | 茶米 % | 奇形粒 % | 死米 % | 部分着色 % |
|-----|-----------|----------|------------------|-----------|----------|---------|----------|---------|-----------|
| 籾田 | 48.4 | 1.1 | 363 | 52.2 | 42.3 | 1.2 | 0.9 | 3.4 | 0.05 |
| 久保 | 16.4 | 0.0 | 344 | 62.8 | 34.2 | 0.0 | 1.0 | 1.3 | 0.0 |
| 今板 | 7.4 | 0.0 | 408 | 74.4 | 24.5 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.0 |
| 下一分 | 10.5 | 53.0 | 322 | 51.7 | 37.9 | 7.2 | 2.2 | 0.3 | 0.6 |

次年度対策

- 気象災害は避けられない...作期分散(品種構成見直し、直播導入など)でリスクの軽減を図ろう！
- 事前対策(湛水等)はもちろん徹底、事後対策も万全に！(ほ場の観察、被害の評価→刈り分け対応等)

(5) 登熟期間の気象リスク②...高温から一転しての低日照...どんな気象でも一定の品質を維持するための栽培管理はできていましたか？

【表】早生品種の登熟期間の気象経過

| 品種 | 出穂期 | 登熟初期(高温) | | 登熟中期以降(低日照) | |
|-------|-------|---------------|---------------|--------------|---------------|
| | | 最高気温℃ (平均) | 平均気温℃ (平均) | 日照時間 (合計) | 日照時間 (平年比) |
| 五百万石 | 7月24日 | 34.2 | 27.4 | 44.2 | 45% |
| こしいぶき | 7月30日 | 35.9 | 28.8 | 20.3 | 29% |

・早生品種は、①登熟初期の高温 ②登熟中期以降の低日照により、未熟粒(心白粒)が発生し、格落ちの要因となりました。

・このような気象下では、籾数過剰のイネは、より気象変動の影響を受けやすくなります。どのような気象下でも、品質を維持できるよう、適正な籾数におさまるイネづくりが大切です。

※気温は阿賀野市久保、日照時間は新発田市下羽津での観測データ

次年度対策

- ムリな多収ねらいは品質低下のリスク大。収量確保は「良質茎の早期確保」から始めよう
- 「こしいぶき」適正籾数は28,000粒/㎡ 適期中干しと適正な施肥量で、高品質安定生産をめざそう